

事業活動実績報告書

施設名	学校法人関口学園 幼保連携型認定こども園 めいしょう幼稚園
教育理念	◎子どもたち一人ひとりの個性・発見・発想を大切生きる力の基礎となる丈夫な身体と優しい心、
	人との関わる力、逞しさを育ていく。
	◎遊びを中心に子ども達の主体性を大切に一人ひとりの個性、発達の姿に応じた援助・保育をする。

事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	子どもたちの気づきと協同性を育む音楽遊び
2 実施期間	令和 6年 5月 2日 ～ 令和 7年 3月 10日

3 取組概要	(取組日) 令和6年 5月 2日 ～ 令和6年 5月 31日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	音楽遊びの導入として3.4.5歳児共に音遊びを取り入れる。3.4歳児はクラス内で身近な音を聴きオノマトペ等でそれを表現し、お互いの音の捉え方を聞き合った。多様な音の捉え方を学ぶと共に身近な音への興味を広げるように活動した。5歳児は園内の音マップを作成した。普段視覚的に捉えていた園内を音に主軸をおいて探検することで様々な発見がみられた。発見した事をお互いに共有することで興味関心が更に広がる様子が見られた。	
	(取組日) 令和6年 6月 27日 ～ 令和7年 3月 10日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	年少(3歳児)の取り組み わらべうた遊びを中心に活動を展開する。様々なわらべうた遊びを通して日本語の語感に即した様々なリズムを経験し、集団遊びを通して音楽の楽しさを味わうことを目的に行った。笑顔でとても楽しそうに参加している姿が印象的であった。その取り組みと並行してカスタネット、タンブリン、鈴、ウッドブロックの経験を取り入れる。リズム打ちの正確さではなく、まず楽器に親しむ事を目的に取り入れた。	
	(取組日) 令和6年 6月 28日 ～ 令和 7年 1月 30日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	年中(4歳児)の取り組み リトミックを中心に活動を展開する。リトミックの中でも、音楽をよく聴きその音楽の変化に即時的に反応しながら表現する(即時反応表現)に重きをおいて活動を行った。回数を重ねる中で、音楽を聴きその音楽に合わせて自由に表現する姿も多く見られるようになった。その取り組みと並行してカスタネット、タンブリン、鈴、ウッドブロック、ミュージックベルの簡単な合奏も経験する。	
	(取組日) 令和6年 6月 27日 ～ 令和 6年 11月 7日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	年長(5歳児)の取り組み 楽器遊びを中心に活動を展開する。使用楽器はカスタネット、タンブリン、鈴、ウッドブロック、ミュージックベル、小太鼓。まずどのようにに各々の楽器を使用するか探索を促してから、楽器の扱い方や合奏をする際の約束等子どもたちと話し合いながら進めていった。静止した状態で楽器を演奏するだけでなく、充分身体を動かしながら楽器を演奏する方法も取り入れた。子どもたちは全身でリズムを感じ、生き生きと活動に参加していた。	

3 取組概要	(取組日) 令和6年 6月 13日 ~ 令和7年 3月 5日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ----- 3.4.5歳児共に毎回音楽遊びの際、身体を動かす歌あそびを取り入れた。取り入れた内容は「でんしゃがでんでん」「ロンドン橋」「むつくりくまさん」「とびだせりすちゃん」等…様々な形態で遊べるものを発達に合わせて簡易な内容にしたり、発展させたりしながら行った。回を重ねる度に子どもたちもとても歌あそびを楽しみにする姿が見られ、歌あそびを通して友達同士の交流も深まっていった。	
	(取組日) 令和 7年 1月 9日 ~ 令和 7年 3月 5日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ----- 年長(5歳児)のお別れ会での音楽発表会への取り組み 曲の選曲、使用楽器、パート等子どもたちに決めてもらい、音楽発表会への取り組みがスタートする。くま組使用曲はYOASOBIの「ツバメ」、使用楽器は小太鼓、ウッドブロック、マラカス、小太鼓。ぞう組使用曲はYOASOBIの「アドベンチャー」、使用楽器は小太鼓、鈴、タンブリン、ウッドブロック。指揮者は各クラスの子どもたちの中から選んでもらう。それぞれの楽器のリズム打ちは1.2学期の音楽遊びの中で使用したものを取り入れる。音楽遊びの時間だけでなく、日々の保育の中でも取り入れてもらい音楽発表会に向けて進めていった。	
	(取組日) 令和 7年 3月 6日 ~ 令和 7年 3月 6日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ----- お別れ会での音楽発表会 園庭で保護者の方々、0.1.2.3.4歳児に見守られての演奏。園庭で演奏するのは初めてだったが、流石見せ場を知っている5歳児。個々しっかりそれぞれのパートに責任を持って取り組み、お互い音を聴き合いながら演奏を進めていた。終わった後みんなから拍手を受け誇らしげな様子が見られた。	
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること -----	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること -----	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日		
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること -----	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの	

効果検証報告書

施設名	学校法人関口学園 幼保連携型認定こども園 めいしょう幼稚園		
教育理念	◎子どもたち一人ひとりの個性・発見・発想を大切生きる力の基礎となる丈夫な身体と優しい心、		
	人との関わる力、逞しさを育てていく。		
	◎遊びを中心に子ども達の主体性を大切に一人ひとりの個性、発達の姿に応じた援助・保育をする。		
事業の区分(5領域)	健康・人間関係・環境・言葉・表現		
1 事業名	子どもたちの気づきと協同性を育む音楽遊び		
2 事業概要	外部講師（聖徳大学准教授）による音楽あそび。年間22回来園し、子どもたちと音楽あそびをする。 1回の活動時間は40分。クラス単位で行う。 年間で5歳児8回、4歳児6回、3歳児6回、園児向けコンサート、お別れ会での音楽発表会 活動		
計画時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 ----- クラス担任1～2名と外部講師（聖徳大学准教授） 園児向けコンサートの時はプロの演奏家（バイオリン・ビオラ奏者）を呼ぶ。 2階ホール又は各クラスで実施。	
	事業後	3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ----- 活動時は十分な人員体制で、一人ひとりの活動をきめ細かく見ることが出来た。クラス担任と外部講師の連携も良く取れ、様々な場面でお互い助け合いながら進めることが出来た。園児向けコンサートは今回プロの演奏家との予定が合わず開催することが出来なかった。次年度は子どもたちに生の演奏に触れる場を作り、音楽を聴く姿勢、演奏する姿勢を実体験として育む機会にしたい。
計画時	4 事業のねらい	音遊びを通して身近な音に気付き、豊かな感性や想像・創造する力を育てる。 わらべうた・リトミックなどを取り入れることで基礎的な音楽的感性を育む。 ボディパーカッション、手作り楽器製作、楽器遊びと段階を踏んで経験する事で、子ども達の気づきと表現する過程を大切にして自己表現を楽しむとともに、友達と協力して音楽を創り出していく喜びを味わう。 音楽指導において保育者が主導する指導形態が多いが、本取り組みでは「子どもたちが1から創り出す音楽会」と称して、年長児に曲選びから音楽発表会までの過程すべてに主体的に取り組んでもらう。その事を通して協同性を高め、経験の幅を広げる。 プロの生演奏を聴く機会を作り、音楽を聴く姿勢、音楽的感性を高める。	
	事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ----- 音遊び、リトミック、わらべうた、ボディパーカッション、楽器遊びと様々な経験をするなかで、音楽の楽しさを充分味わっている姿がみられた。その中で様々な気づきが見られそれを友達と共有する中で更なる興味関心につながっていた。 「子どもたちが1から創り出す音楽会」では、運動会で経験した曲を子どもたちが選曲する、経験した楽器の中からどの楽器を選択するか等、子どもたちが自ら主体的に音楽会に向けて取り組む姿が見られ、協同性も発揮されていた。今回は3学期から音楽会に向けてスタートしたが、余裕を持たせる為にもっと早い時期からのスタートに改善していきたい。
	5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ----- 3.4.5歳児の発達段階にあわせて段階的に音楽活動することを前提に活動を繰り広げる。 3歳児においては日本語のイントネーションに基づいたわらべうた遊びを中心に指導を行い、その過程においてリズム感や音楽的感性を培いその後の指導につなげる。 4歳児においてはリトミックを中心に指導を行い、その過程でリズム感・拍を感じる心等を養い、楽器遊びに繋がる感覚を養うと共に、楽器指導の導入を行う。 5歳児においては「子どもが1から作り出す音楽会」に取り組む。曲選び、指揮経験、合奏の構成、音楽発表会までのすべての過程に対して主体的に取り組む。音楽活動の時だけでは補えない分は普段の保育の中でも日常的に取り入れ、音楽活動と日常の保育が乖離しないように充分配慮する。	

事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 各学年において到達目標を達成することが出来た。次年度は今年度の実績を元に指導計画を密に立案し更に新規な点を加味して取り組んでいきたい。
計画時	6 環境構成	手作り楽器製作においては、幼児が自分のイメージを形にできるように、紙コップ・紙皿・トイレットペーパーの芯・空き箱などの廃材や描画材料、シール等 様々な素材・材料を用意する。 楽器あそびにおいては様々な楽器に自由に触れられる環境を用意する。(カステネット・鈴・タンブリン・トライアングル・ウッドブロック・ミュージックベル・木琴・小太鼓・大太鼓) 5歳児においては、幼小連携の観点、演奏(楽器遊び)することと聴く(音楽鑑賞)ことは車の両輪であるとの考えの基、楽器遊びと並行して音楽鑑賞に対しても重点を置く。その際使用する曲は、クラシックに限らず、日本音楽・歌曲・ロック・ポップ・民族音楽など様々なジャンルを扱う。
	事業後	6についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 手作り楽器を取り入れることで、幼児達は楽器を大切に扱う事に繋がると共に、既製の楽器に対してより親しみを深めるきっかけとなった。次年度も既製の楽器と手作り楽器を織り交ぜた音楽会に発展させていきたい。自由に楽器遊びをする環境を施設的に用意することは出来なかったが、担任の協力の元、通常の保育の中に楽器遊びを入れ込むことが出来た。そのことにより楽器に子ども達はより親しみをもち身近な存在として触れることが出来た。音楽遊びの際、音楽鑑賞を取り入れることで、子ども達の様々なジャンルの楽曲への興味関心を高めることが出来た。
事業後	7 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 主体的に環境や活動に関わることで、様々なものに対して興味関心が広がると共に、様々な表現方法で自分なりに表現出来るようになる。 子どもたちの気づきを指導者が言語化し、他児とも共有していくことで、表現する過程を楽しみ表現の多様性を身に付けることができる。 友達と協力して(協同性を発揮して)最後までやり遂げる力を育み、クラスで一つのものを作り上げる満足感を味わう。
	7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 期待される児童の姿は全て達成された。特に気づきと協同性の場面において顕著である。5歳児のお別れ音楽会は、子どもたちの成長の姿がしっかりと反映された音楽会となった。又それを見学した3.4歳児にとっても5歳児の姿は、音楽表現活動における憧れの対象の形成となりよりよい体験となった。
事業後	8 効果検証 総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 子どもたちの気づきと主体性を大切に音楽表現活動を進めてきた。特に楽器あそびにおいては、保育者主導になりがちな点を子どもたちからの気づきを待ちながら、活動を進めることを念頭に置き、指導を繰り返し広げてきた。その過程で子ども達の様々な気づきや発見から指導者自身も多くの事を学ばせてもらったと同時に「待つ保育」の大切さを再認識することが出来た。5歳児子ども達から音楽発表会はYOASOBIの曲でトリクエストがあった際、保育で扱う音楽の枠を超えて子どもたちが音楽を捉えていること、園生活の様々な場面で経験する音楽の在り方の重要性をひしひしと感じることに繋がった。一年間3.4.5歳児の活動過程において、様々な音楽表現活動を通して子どもたちが音楽を楽しむ姿勢、主体性、協同性の育みと成長を年間を通じて実感することが出来た。 本園の特色として令和7年度も継続する活動である。今後は2歳児に枠を広げてつながりのある音楽表現活動計画を立案すると共に、鍵盤ハーモニカ等の定音楽器にも幅を広げて子ども達の主体的な音楽表現活動の在り方の模索と更なる充実を図っていきたい。